

附中通信

～気づきが拓く学校づくり～

三重大学教育学部
附属中学校

№3

平成29年5月11日

先日の授業参観（3年生につきましては進路・修学旅行説明会）ならびに育友会総会には、多数の保護者の皆様にご来校いただき、ありがとうございました。総会では貴重な時間をいただき、附属学校の使命と、本年度、重点的に取り組みたいことについて説明させていただきました。教育は、学校と家庭が課題と方針を共有し、連携・協働する共育・協育であってこそ大きな成果があがると考えます。平成29年度の学校経営の改革方針をご一読いただき、ご理解ご協力いただきますようお願いいたします。

平成29年度 学校経営の改革方針

三重大学教育学部附属中学校

附属学校園共通

〈教育目標〉 『主体的、創造的に生き抜く心豊かな子どもを育てる』

〈めざす子ども像〉

- ・正しいことや美しいことを求め、粘り強く行動する子ども
- ・お互いを大事にし、高め合おうとする子ども

I めざす学校像

学校教育目標

『豊かな創造性とたくましい実践力をもち、生活をきりひろく生徒の育成』

めざす学校像

- ・生徒自らの学びを表現し合う学校
- ・教師と生徒に心通うかかわりのある学校
- ・内にも外にも開かれた学校・教師

めざす生徒像

- ・積極的に学び続け、豊かに表現しようとする生徒
- ・なかまを大切にし、互いに高め合う生徒
- ・心身共に健やかに成長する生徒

めざす教師像

- ・本物を求め、自らを磨く教師
- ・実践、行動で示す教師
- ・生徒に寄り添い、生徒の主体性を引き出す教師
- ・同僚性をもち、共に高め合う教師

【気づきが拓く学校づくり】

II 現状と課題

- 1 「学校が楽しい」と90%以上の生徒が答えるなど落ち着いた状況ではあるが、少数ながら楽しくないと感じている生徒や支援の必要な生徒に目を向けたい。また、挨拶、掃除に重点をおき、学校を活性化させたい。
- 2 学習状況調査の結果から、言語活動に本校の強みがあるが、対話を進め、仲間と活動することや知ることのよこび、考えることの楽しさを感じ得ることが学びの質的な高まりに必要なためである。
- 3 持続可能な開発のための教育（ESD）の視点から、生徒会活動をはじめ生徒の自主活動など主体性を育てる活動を大切にしていきたい。
- 4 附属校園の立地を生かした異校種間の連携モデルを提案していきたい。

Ⅲ 重点目標【太字ゴシック】と【具体的な行動計画】

【聴き合い、学び合う関わりを育て、生徒一人ひとりの学びを大切にした授業づくり】

- 1 授業公開を積極的に進める。(1人2回以上/年のべ60回)
- 2 実践例や研究授業の振り返りを教科部会を中心に行い、今次研究を推進すると共に、プレ公開や他校との連携の場などを通して、本校の取り組みを積極的に発信する。
- 3 教科毎に学部との連携を積極的に進める。(連携授業、教育実習)
- 4 専門性や力量を高める研修会やベンチマーキングに積極的に参加し、その還元に努め、職場OJTの活性化を図る。(他附属研究会参加、学部との連携)
- 5 シラバスの活用やノート指導を通して、学習習慣の定着や自律して学ぶ態度を養う。

【豊かな関わりを育み、豊かな心を育てる教育活動の推進】

- 1 「自ら動く！附中生」を活動方針として掲げ、生徒会活動を支援し自治の力を養い、他との交流に積極的に参加する。(JRC、リーダー交流、他校との交流など)
- 2 挨拶、清掃、部活動のとりかかりに重点を置き、共通理解を大切に教師集団が率先して取り組む。
- 3 月2回程度ノー会議デーを設けることなどにより生み出される時間を、生徒会活動をはじめ、生徒の自主活動に充てる努力を続け、教師が生徒活動を支援することを通して、教師と生徒の信頼関係をより深める。
- 4 人権教育を基盤にした集団づくりの力量を高めるとともに、道徳の時間の確保と充実を図る。(橋北中校区の人権学習実践交流会への参加、道徳の時間の確保)

【教職員の学校経営への参画と学校経営品質改善活動の推進】

- 1 めざす学校像実現に向けて、教職員との対話を積極的にもち、自校のミッションを共有すると共に、学年、学級での具体化につなげる。(個人面談2回/年)
- 2 一人一台パソコンの利用を活用し、サイボウズや共有ファイル等による情報共有、反省、引き継ぎ等を進める。(月・木以外は朝の打ち合わせなし)
- 3 各分掌からの提案は必ず企画委員会に提出するなど会議の効率化を図る。また、各分掌でのP-D-C-Aを主体的に取り組む。(企画委員会・運営委員会を月1回ずつ実施)
- 4 年間変形労働時間による勤務時間管理を行い、過重労働対策を推進する中で、時間外・休日労働時間の50時間超えを解消する。

【学部や保護者と進める開かれた学校づくり】

- 1 学校自己評価とともに学校関係者評価委員による学校評価を実施する。(学校関係者評価委員会 3回/年)
- 2 メール配信の継続や学校だよりの発行(2回/月)等、積極的な情報発信に努める。
- 3 ホームページの更新を継続的に行い、充実に努める。
- 4 育友会活動や学生ボランティアの活用等、本校にとって効果的かつ継続可能な活動について育友会役員とともに推進を図る。
- 5 附属校園の立地を生かした異校種間の連携モデルを可能な教科から提案し、小中連携を進める。